

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271202952		
法人名	株式会社マザアス		
事業所名	マザアスホームだんらん松戸		
所在地	千葉県松戸市小金原4-29-17		
自己評価作成日	平成23年2月28日	評価結果市町村受理日	平成23年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成23年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前回の外部評価の内容を踏まえ、運営推進会議においては、年間の運営推進計画を策定して計画的・継続的な運営を目標に行っている。また、実際に地域との交流を出来る限り多く持つように、買い物など商店街を利用し、地域のイベントなどには入居者とともに参加している。<近隣神社への初詣、夏祭り(盆踊りの練習から参加)、大運動会、福祉フェア、社会福祉協議会の茶話会など>入居者にとって『第二の我が家』となれるように、個々のニーズにあったサービスの提供を目標に日々取り組んでる。また、日常生活で行なう事柄に関して、出来る限り入居者とともにいき、残存機能を活かせるような支援を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設が今年度重点的に取り組んでいる優れた点の一つは家族が参加出来る交流の機会を多くしている事である。隔月のイベントやバスで出かける小旅行を行い利用者と一緒に楽しく過ごしている。また懇談会ではメールアドレスについてなど活発な話し合いが行われている。二つ目は利用者の外出の機会を多くしている点である。利用者は毎日外出をするように心がけているが、買い物で八百屋さんには必ず出かけるなど利用者の生活リズムとして取り組んでいる。三つ目は残存機能を活かす取り組みであるが訪問リハビリを週4回行うなどしている。利用者が楽しく充実した生活を送れるよう職員が一丸となってサービス提供に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を作り、事務所内、玄関にも掲示し、全職員が理念を共有し実践につなげています。	気がねなく暮らせる「第二の我が家」を、事業所独自の理念としている。カンファレンスや会議で、利用者が地域に根ざして暮らし続けられるケアとなっているか振り返りをして、理念の共有と実践化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に入会し、入居者とともに夏祭り、防災訓練、地域の運動会や市民センターの集まりに参加しています。定期総会等の行事に出席するように心掛けています。また、入居者と地域の商店街で買い物をしたり、クリーニング店に行き出しています。	町会と避難訓練についての話し合いや、廃品回収、防災訓練など地域との交流は活発である。また、利用者が近隣商店での買い物などをして、地域の人達と交流をしている。	地域行事への参加や近隣の幼稚園児と中学生が訪れて来るなど、地域との交流は活発である。今後地域で、認知症と利用者への理解が促進されるよう取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間の運営推進会議計画をもとに会議を行い、そこで得た意見をサービス向上に活かしています。特に防災や感染予防対策などについては、他の施設の取り組みを参考にしより良い対応に繋げています。	運営推進会議は、利用者、家族、地域包括、民生委員、介護相談員が参加して6回開催されている。施設から活動内容の報告と近隣へのお願いなどを説明している。また家族からの要望などが話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月介護相談員の受け入れを行なっています。必要に応じ、担当者には連絡を入れています。	行政の窓口とは運営面での相談などを定期的に行っている。介護相談員制度の活用、市が主催するグループホーム連絡会や研修への参加など、情報収集を行い、行政との連携は密である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権擁護委員会にて行なわれる定期的な勉強会に参加し、知識と理解を深めるよう取り組んでいます。日中は玄関を開錠するなどして、全ての職員で身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。	身体拘束はしていない。法人の人権擁護委員会の、身体拘束に関する情報ファイルの閲覧や委員会に出席して知識と理解を深めている。日常のケアにおいて、全ての職員が身体拘束に繋がらないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県の研修に参加の他、事務所内にも資料を置き、いつでも学べるようにしています。全職員で、虐待が見過ごされることがないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県の研修に参加しています。必要に応じ活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行い、理解・納得を得られるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しています。運営推進会議に家族・利用者の代表者が参加しています。家族会にて懇談会を開催しています。月に1度の介護相談員の訪問日を毎月家族に知らせています。	2～3カ月に一回の家族会開催やイベントを兼ねた家族との懇談会で、利用者や家族の意見・要望を汲み取っている。運営推進会議で家族と利用者の代表による報告や提案を受け、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員ミーティングを行い意見を聞き、それを踏まえて、管理者会議を開催して職員の意見を反映させています。	毎月のミーティングで職員の意見を汲み上げている。会議では業務改善などの意見が多く提案され、管理者会議で取り上げて運営に反映している。また、職員と個別面接を行い仕事の状況や課題を話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回職員と面談する機会を作っています。チャレンジシートを利用し、職員の目標を聞き支援しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格試験制度を定め、合格祝い金を支給しています。試験対策講習会等を開催して支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、同業者との情報交換、研修会等を行なっています。社内のグループホーム3ヶ所で勉強会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に面接を行い、本人が困っていること、不安なこと、要望に耳を傾け、安心を確保する為の関係作りを努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に面接を行い、関係作りを努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接段階で、話を聞き、他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で人生の大先輩として職員が教わる事や、支え協力してもらう場面が多くあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	平成19年度に家族会を発足させ、年に1度のバス旅行や行事を行なっています。各家族との個別の話合いの場を多く持つよう努め、本人を共に支えていく関係が築けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう家族と相談しながら支援に努めています。入居後も今までの趣味やサークルなどを可能な限り続けていけるように支援しています。	入居者は施設の近くに住んでいた人が8割である。入居後も近所の人が遊びに来ている。又、家族と相談し、これまで楽しんでいた趣味やサークルに参加し、馴染みの人や場が継続できる支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活で自然と構築されている利用者同士の関係性を重視し、その関係性を把握するように心掛けています。必要時には職員がさりげなく介入し、良い関係性が保てるよう支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じ本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の意向の把握ができるよう努めています。困難な場合は、今までの経過を振り返ったり、本人が望むことの把握に努め、本人本位に検討しています。	日々のケアから本人の思いや意向を汲み取り、家族との意思疎通も充分にとり、衣類など今まで着用していた丸首のシャツを着るなどしている。暮らしやすいよう本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人等により話を聞き、これまでの暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要に応じた関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画の作成に努めています。	介護日誌・経過記録等を元に、本人・家族・関係者の意見・アイデアを反映した介護計画を作成している。利用者家族のアンケートには、しっかり説明を受け話し合っていると高い評価を受けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に細かく記録を残す他、毎日の申し送りの時間やミーティングの際に情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応できるよう柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組むよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員等から情報をえて、地域で行っています。茶話会、福祉フェア、夏祭り等に参加し、地域の方とのコミュニケーションを楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援しています。	入居前からのかかりつけ医に原則家族が対応しているが、利用者の病状により施設の提携医師が往診をしている。提携の医師が、毎月三回、歯科医師が毎週一回往診して連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本部であるマザアス南柏の担当看護師に情報や気づきを伝え相談に乗ってもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努め、病院関係者との関係作りを行なっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で本人、家族と話し合いを行なっています。事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有しチームで支援に取り組んでいます。	重度化や終末期については入所時に家族と話し合いを行っている。現段階は医師に受診の際同行して、他の施設に移ることなどを話し合っている。今後は家族の希望を受けて出来るだけ過ごせることを検討したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行なっています。研修後は各自で振り返りや、学ぶことができるようマニュアルを作成し、事務所内に置いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施しています。地域の防災訓練にも参加しています。日中、夜間の避難を想定した訓練を行なって、消防署から直接指導も受けています。	避難訓練は消防署と連携して行い、施設で夜間を想定した訓練を2回実施している。2階からの避難は階段を使って訓練をしている。スプリンクラー、煙・熱探知機、自動通報装置を設置している。	自治会に加入して、地域の防災訓練にも参加するなど交流が行われている。今後は施設の夜間の非常時対応について、地域の協力が得られるように取り組むことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行なっています。	利用者の尊厳を守り名前は名字を使っている。介護では言葉使いを重要視し、気をつける言葉づかいを職員同士が注意し合い改善している。プライバシー保護の研修委員会に参加していて全員が内容を共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中、本人が希望を表したり、自己決定ができる場面を多く設けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の主体は利用者であり、職員の都合を優先させることが無いように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりに合わせた身だしなみ、おしゃれができるよう支援を行なっています。定期的に整髪し、希望により、ヘアダイやパーマも行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、入居者一人ひとりの好みや力を見極めるよう努め、一緒に食事のメニュー・準備・調理・片付けを行なっています。誕生日には本人の食べたい物や希望するメニューを作ってお祝いしています。	各々できることを、職員と一緒に調理・配膳を行っている。誕生日には、本人希望のメニューでお祝いしている。「ここで、皆さんと一緒に食べるから美味しい」と、楽しそうに話し合いながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分量・食事量を記録に残し、一人ひとりの状態を把握しています。習慣や状態に合わせた食事の確保ができるよう支援を行なっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、本人の力に合わせた支援を行なっています。ケア実施確認を記録に残しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄を記録に残して、排泄リズムを把握し、習慣や力を活かし、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行なっています。	個々の排泄記録でリズムを把握し、食事の前後・睡眠を充分確保したトイレ誘導等、一人ひとりに合った排泄の自立へむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施しています。本人に確認し希望に添えるよう支援しています。	週に2～3回入浴しているが、本人に確認したり、排尿便の状態で連日入浴する等、日時共に臨機応変に支援している。入浴を拒否する人には「体重を測りましょう」等の声かけによりスムーズに入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり生活習慣の把握に努め、その時々状況に応じて、休息したり、安心して休んで頂けるよう支援を行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報ファイルを作成し、活用しています。臨時で処方される薬についても、全職員が把握できるように、伝達を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の力を活かし、得意な事を中心に本人の意欲が高まるように心掛け、張り合いのある生活出来るよう支援しています。嗜好、趣味を把握し、楽しみごと、気分転換ができるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候に配慮しながら入居者の希望に沿い、出来る限り戸外へ出掛けています。本人の希望で、普段はいけない場所へは、家族の協力を得て出掛けられるよう支援しています。	天気の良いときは毎日散歩に出かけることを心がけている。近隣の図書館や喫茶店に出かけるほか、毎日野菜などの買い物に出かけている。バスで遠方の水族館に旅行をして利用者が楽しく過ごせるよう取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所内においては、現金を預からない方針です。普段の買い物時等は、立替を行い、現金を本人に手渡し、支払いを行なってもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ、電話や手紙のやり取りができるよう支援をしています。家族に年賀状を書いたり、事前に家族と話し合っ、声が聞きたいときは電話できる環境を整えるように心掛けています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間に入居者が混乱を招くような刺激がないように配慮し、季節を感じてもらいながら、居心地良く過ごせるように努めています。	広いリビングには皆で作ったコラージュが飾られていて、利用者は手芸、絵手紙や折り紙など好きな事を楽しんでいる。畳のスペースがあり活動に利用されている。外の広い庭園の四季の移ろいを見ながら、日常の憩いの場として楽しく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置いたり、エレベーターホールにテーブルセットを設置するなどし、入居者が一人で過ごしたり、気の合う利用者同士で会話を楽しんだりできる環境を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、本人の使い慣れたものや好みものを置くようにしています。寝具などもベッドに限らず、床ベッド(布団)などの対応もしています。本人が居心地良い様に、これまでの生活習慣を出来る限り継続できるように心がけています。	居室のベッド、タンスや寝具は施設で用意しているが、使い慣れたものを持ち込むことは自由である。居室内には鏡台、人形や仏壇などを置いてあり、利用者が裁縫でカバーなどを作りながら自由に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、必要な場所に手すりを設置したり、洗面台も本人の身体状況に合わせ高さが調整できるものを設置する等、できるだけ安全に自立した生活が送れるよう工夫しています。		